



おぐら  
尾倉

<校訓>  
自主  
創造  
協力



令和3年5月24日(月)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
  - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
  - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

## ラグビー 福岡堅樹 「後悔なく次の道に」

ラグビー日本代表として活躍した福岡選手。2019年のワールドカップは50m5秒8の俊足を強みに4つのトライを奪い、日本の史上初のベスト8進出に大きく貢献しました。

大会後は7人制で争われる東京オリンピック出場を次の目標に掲げ、その後、現役を引退して夢である医師への道に進むという人生設計を描いていたが、新型コロナウイルスの感染拡大で1年延期となった東京オリンピックを断念することを決断。23日の日本選手権決勝が現役最後の試合となりました。この大一番でも福岡選手は5試合連続となるトライを決めました。

そのトライの場面は前半30分。「スピードが乗った状態でボールをもらえたと、あの状況なら準備がいてもいけると思った」とわずか数メートルのスペースに切り込み、2人からタックルを受けながらも最後は飛び込んで片手でトライ。この試合、最大となる20点のリードにつなげました。

試合後の会見で福岡選手は「ラグビー人生でやりたいことはやりきれた。引退するという実感はまだわからないが、もうラグビーをすることがないと思うとじわじわと来るものがある。パナソニックで最後に優勝を勝ち取ることができて何ひとつ後悔なく次の道に進める」とすがすがしい表情で語りました。2月の医学部受験に向けた予備校での勉強や、4月から始まった大学の授業などと並行して臨んだ今シーズンは過酷を極めました。「今まではラグビーが中心だったが受験もあってスケジュールは大きく変わった。コンディション調整も難しく、車で移動してすぐ練習という日もあったし、両立はとても大変だった」

厳しい環境にも屈せず今シーズン、14個のトライをあげて優勝に大きく貢献した福岡選手。ラグビー界で輝いた28歳は「患者に心から向き合って寄り添える医師」という新たな夢に向かって歩み始めます。

人生の目標はいろいろかわって当たり前だと思います。最後に自分自身が輝ける場所を見つけること・・・それが本当に大切なことではないでしょうか。



☆きれいだね☆

君たちは「きれいだね」という言葉を聞いて、何を思い起こしますか。今の時期であるならば、初夏の訪れを感じさせる花々(学校では水仙)が咲き、皿倉山も新緑でまぶしく光っていますから、「皿倉山」と答える人もいるかも知れません。

確かに、水仙に限らず、梅だって、パンジーだって、花は何でもきれいです。そして、花に限らず、若葉もきれいですし、夕焼けや朝焼けの空、満天の星々、自然の雄大な景色、遠くに見える山々、海、川、湖...など、自然のありとあらゆるものは、きれいなその姿を私たちに見せてくれます。そして、その美しさは、私たちの心を和ませます。穏やかにします。時に感動を与え、見とれてしまうことさえあります。自然のあたり前と思われるその姿が、人間の心にとってもよい影響を与えているわけです。つまり、きれいなもの、美しいものは人の心を豊かにします。

ところで、きれいなものは自然だけでしょうか。人工物であっても、その美しさが見られることがあります。それが幾何学的な図形であるなしに関わらず、何となく心に残る何かをもっているという建物や、人工物があるのです。きっと、君たちも見たことがあるでしょう。それは人工物が自然物とそっくりだったり、またはそれを作った人、設計した人たちの思いが込められているのかも知れません。

また、きれいには、「心がきれい」というような使い方もします。純粹で、なんだか雰囲気輝いて見える人を、「あの人は心がきれいだ」という言い方をします。親切な人を「心優しい人だ」と言いますが、心優しい人のことも、「心のきれいな人」と呼ぶこともあります。つまり、言葉と心が同じであって、話す言葉そのものが、その人の心の状態を示している人を、そう呼んでいるのです。

そんな「心のきれいな人」の姿も、私たちに感銘を与えます。昨今、表と裏のはっきりしている人の多い中で、「心がきれいな人」は、本当に貴重な存在です。誰もが、「できれば、自分もそうありたい」と願う、理想の姿でもありますね。

きれいな姿の自然、きれいな姿の人工物、きれいな心、これらに共通していることは、いずれも着飾っていない、ということです。決して背伸びをせず、とって、悪びれることもせず、純粹に、素直に、そのものの姿を自然に見せているように感じられます。つまり、自然そのものの姿が美しく、形そのものの姿が美しく、人間そのものの姿が美しい、というわけです。

人間に限って言うならば、「本来の素直な心」、「本来の優しい心」、「本来の愛する心」をそのまま表している人が「心がきれいな人」ということでしょうか。

花の姿や、自然の美しさを見るときに、ふと自分自身を思い起こしてみてください。自分も、人間そのものの、本来備わっている美しさが出ているだろうか。素直な心になっているだろうか。打算的で、計算ずくの生活になっていないだろうか。人を傷つける言葉を言っていないだろうか。人を不快にする表情をしていないだろうか。そんなことを思い起こしてみるのも、自然の美しさが特にあふれる、春から初夏にかけてならのことではないかと思うのです。